



## 2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月5日

上場会社名 グンゼ株式会社

上場取引所 東

コード番号 3002 URL <http://www.gunze.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 廣地 厚

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 小倉 誠

TEL 06-6348-1314

四半期報告書提出予定日 2019年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	106,522	0.6	6,070	2.2	6,513	3.8	4,577	9.4
2018年3月期第3四半期	105,881	3.4	5,938	18.3	6,769	3.9	4,183	6.4

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 1,984百万円 (75.0%) 2018年3月期第3四半期 7,938百万円 (77.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	252.45	250.93
2018年3月期第3四半期	226.57	225.09

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	172,291	111,361	63.7	6,085.18
2018年3月期	171,273	112,129	64.9	6,084.46

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 109,803百万円 2018年3月期 111,141百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期				90.00	90.00
2019年3月期					
2019年3月期(予想)				100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	145,000	3.2	7,000	12.2	7,000	8.6	4,000	14.7	220.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	19,293,516 株	2018年3月期	20,993,516 株
期末自己株式数	2019年3月期3Q	1,249,129 株	2018年3月期	2,727,023 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	18,134,014 株	2018年3月期3Q	18,464,786 株

自己株式数には「グンゼグループ従業員持株会専用信託」が保有する当社株式数を含めて記載しております。

当社は、2017年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。2018年3月期3Qの期中平均株式数については、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年12月31日)における日本経済は、企業業績や雇用環境の改善等を背景に全体としては緩やかな回復基調にあるものの、米中間の貿易摩擦や通商問題、新興国等の海外経済の不確実性などにより、先行き不透明な経営環境が続きました。

このような状況において、当社グループでは、中期経営計画「CAN20計画第2フェーズ(2017年度～2020年度)」の2年目を迎え、『集中と結集』をキーコンセプトに、「セグメント別事業戦略」「新規事業創出」「経営基盤強化」の3つの基本戦略への取り組みを進めました。

機能ソリューション事業は、プラスチックフィルム分野及びエンジニアリングプラスチック分野を中心に好調に推移しました。アパレル事業は、消費者の節約志向と天候影響を受ける中、インナーウェア差異化商品の拡販と成長販路への取り組みを強化しましたが、レグウェアが苦戦しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は106,522百万円(前年同期比0.6%増)、営業利益は6,070百万円(前年同期比2.2%増)、経常利益は6,513百万円(前年同期比3.8%減)となりました。海外関係会社の売却損を計上しましたが、固定資産売却益を計上したこと等から、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,577百万円(前年同期比9.4%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### <機能ソリューション事業>

プラスチックフィルム分野は、主力のシュリンクフィルムが国内・海外ともに堅調であり、ナイロンフィルムも好調に推移しました。エンジニアリングプラスチック分野は、半導体向け、産業機器向けが引き続き好調に推移しました。電子部品分野では、業務用タッチパネルは堅調に推移したものの、米国工場の生産性悪化の影響を受けました。メディカル分野は、縫合補強材の国内新販売体制が順調に立ち上がり、人工皮膚も堅調に推移しましたが、治験費用等の増加影響を受けました。

以上の結果、機能ソリューション事業の売上高は39,797百万円(前年同期比5.7%増)、営業利益は4,903百万円(前年同期比15.7%増)となりました。

#### <アパレル事業>

インナーウェア分野は、BODYWILD「AIRZ」の展開店舗拡大に加え、スポーツカテゴリー商品、完全無縫製・カットオフ等の主力商品が伸長し、ベーシックインナーの減少トレンドを吸収しましたが、新規販路拡大に向けた販売コストの増加影響を受けました。レグウェア分野は、ファッションボトムトレンドの変化や、天候影響もあり、店頭は苦戦し高収益商品を中心に低調に推移しました。繊維資材分野は、海外事業環境変化による生産性悪化の影響を受けました。

以上の結果、アパレル事業の売上高は55,837百万円(前年同期比2.7%減)、営業利益は2,620百万円(前年同期比18.0%減)となりました。

#### <ライフクリエイト事業>

不動産関連分野では、ショッピングセンター事業は地域に密着した運営により堅調に推移し、賃貸事業は新規物件が貢献しました。スポーツクラブ分野は、競争激化による既存店での会員数の減少により苦戦しました。

以上の結果、ライフクリエイト事業の売上高は11,209百万円(前年同期比0.5%増)、営業利益は893百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

**(2) 財政状態に関する説明**

総資産は、172,291百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,018百万円増加しました。主な増加要因は、受取手形及び売掛金の増加2,149百万円、建物及び構築物の増加1,356百万円、投資その他の資産その他の増加1,301百万円であり、主な減少要因は、投資有価証券の減少4,889百万円、現金及び預金の減少1,521百万円であります。なお、2018年7月11日に当社連結子会社である福島プラスチック株式会社において発生した火災により焼失した たな卸資産及び固定資産の帳簿価額等167百万円は、保険金が受領できる見込みであるため、火災未決算として流動資産の「その他」に計上しております。

負債は、60,929百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,785百万円増加しました。主な増加要因は、コマーシャル・ペーパーを含む長短借入金の増加2,238百万円、未払法人税等の増加1,388百万円であり、主な減少要因は、流動負債「その他」の減少935百万円（為替予約等）であります。

純資産は、111,361百万円となり、前連結会計年度末に比べ767百万円減少しました。主な増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加4,577百万円であり、主な減少要因は、その他有価証券評価差額金の減少2,831百万円、配当による減少1,654百万円、自己株式の取得等による減少1,454百万円であります。

**(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明**

2019年3月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績が概ね想定の範囲内で推移していることから、2018年5月14日に公表した通期業績予想からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,477	7,956
受取手形及び売掛金	30,277	32,427
商品及び製品	19,468	19,790
仕掛品	5,906	6,601
原材料及び貯蔵品	4,387	4,770
その他	3,260	3,532
貸倒引当金	△9	△9
流動資産合計	72,769	75,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,106	40,462
機械装置及び運搬具（純額）	10,436	9,795
土地	12,516	13,138
その他（純額）	2,795	3,458
有形固定資産合計	64,853	66,855
無形固定資産	1,817	2,125
投資その他の資産		
投資有価証券	23,775	18,885
その他	8,142	9,443
貸倒引当金	△84	△87
投資その他の資産合計	31,832	28,242
固定資産合計	98,503	97,223
資産合計	171,273	172,291

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,640	9,679
短期借入金	6,501	7,041
コマーシャル・ペーパー	6,000	9,800
1年内返済予定の長期借入金	5,077	3,109
未払法人税等	337	1,726
賞与引当金	1,229	318
その他	9,973	9,037
流動負債合計	38,760	40,713
固定負債		
長期借入金	9,912	9,778
退職給付に係る負債	5,263	5,165
長期預り敷金保証金	4,293	4,404
その他	913	867
固定負債合計	20,383	20,215
負債合計	59,143	60,929
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,071	26,071
資本剰余金	13,942	6,780
利益剰余金	79,718	82,540
自己株式	△11,152	△5,460
株主資本合計	108,579	109,931
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△81	15
その他有価証券評価差額金	2,711	△119
土地再評価差額金	△54	△54
為替換算調整勘定	1,248	941
退職給付に係る調整累計額	△1,261	△911
その他の包括利益累計額合計	2,561	△128
新株予約権	281	276
非支配株主持分	706	1,281
純資産合計	112,129	111,361
負債純資産合計	171,273	172,291

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
売上高	105,881	106,522
売上原価	75,191	75,174
売上総利益	30,690	31,348
販売費及び一般管理費	24,751	25,277
営業利益	5,938	6,070
営業外収益		
受取利息	48	47
受取配当金	394	435
固定資産賃貸料	203	255
為替差益	64	84
デリバティブ評価益	350	111
その他	283	123
営業外収益合計	1,345	1,058
営業外費用		
支払利息	139	170
固定資産賃貸費用	179	241
その他	194	204
営業外費用合計	514	616
経常利益	6,769	6,513
特別利益		
固定資産売却益	330	647
投資有価証券売却益	6	181
関係会社株式売却益	214	—
その他	—	3
特別利益合計	552	832
特別損失		
固定資産除売却損	242	127
関係会社株式売却損	84	450
関係会社清算損	50	—
関係会社投融資評価損失	37	76
減損損失	395	—
事業構造改善費用	213	—
その他	48	0
特別損失合計	1,071	653
税金等調整前四半期純利益	6,250	6,691
法人税等	1,977	1,994
四半期純利益	4,273	4,696
非支配株主に帰属する四半期純利益	89	118
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,183	4,577

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	4,273	4,696
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,466	△2,831
繰延ヘッジ損益	—	97
為替換算調整勘定	98	△328
退職給付に係る調整額	100	350
その他の包括利益合計	3,665	△2,711
四半期包括利益	7,938	1,984
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,836	1,877
非支配株主に係る四半期包括利益	102	107

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年5月14日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、自己株式260,000株の取得を行いました。その結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が1,677百万円増加しました。

また、2018年11月5日開催の取締役会において自己株式の消却を決議し、2018年11月26日付で自己株式1,700,000株の消却を行いました。その結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ7,146百万円減少しました。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	機能ソリューション事業	アパレル事業	ライフクリエイティブ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	37,609	57,189	11,082	105,881	—	105,881
セグメント間の内部売上高 又は振替高	51	195	76	322	△322	—
計	37,660	57,384	11,158	106,203	△322	105,881
セグメント利益	4,239	3,195	869	8,305	△2,366	5,938

(注)1 セグメント利益の調整額△2,366百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、当該費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	機能ソリューション事業	アパレル事業	ライフクリエイティブ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	39,740	55,669	11,113	106,522	—	106,522
セグメント間の内部売上高 又は振替高	57	168	96	321	△321	—
計	39,797	55,837	11,209	106,844	△321	106,522
セグメント利益	4,903	2,620	893	8,417	△2,346	6,070

(注)1 セグメント利益の調整額△2,346百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、当該費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。